

ICT を活用した教師のための遠隔大学院

岐阜大学総合情報メディアセンター 教授 加藤 直樹

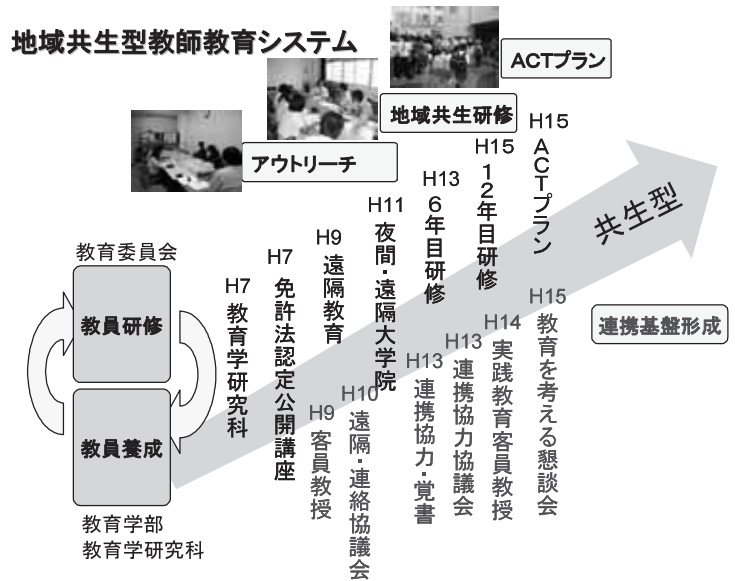
1. はじめに

岐阜大学における教師のための遠隔大学院への取り組みは、平成7年の教育学研究科の設置以来の継続的なものであり、「教師教育」における教員養成系学部・大学院のあり方を段階的に追求したものである。県教育委員会の連携基盤の形成とその基盤を活用した発展的な取り組みを支える手段としてICTを積極的に活用しており、テレビ会議を活用したサテライト型遠隔教育を中核とした取り組みを展開してきた。さらに、近年のインターネットのブロードバンド化により自宅や職場での学修を可能とするインターネット型遠隔教育への取り組みを開始した。

また、これらの取り組みは平成16年度に特色GP(特色ある大学教育支援プログラム)及び現代GP(現代的教育ニーズ取組支援プログラム・ITを活用した実践的遠隔教育(e-Learning))に採択されている。

2. 地域共生型教師教育システム

岐阜大学では、これまでの教員養成は大学で行い教員研修は教育委員会で行うという枠組みを再考し、『両者が一体となって教員養成段階と教員研修段階の有機的な教育体制を整備し、教員の生涯にわたる多様な教育課題に対応できる資質の向上にあたる必要がある』との立場に基づき「地域共生型教師教育システム」の開発に取り組んでいる。その取り組みは、①アウトリーチ型・遠隔教育プログラム、②地域共生型・教員研修プログラム、③ACTプラン・行動的連携による教員養成プログラム、④連携基盤から構成され、図に示すような経緯となっている。とくに、アウトリーチ型遠隔教育では、平成9年により免許法認定公開講座を開始し、平成11年には夜間・遠隔大学院を開設している。



3. テレビ会議を活用したサテライト型遠隔教育への取り組み

平成7年度から開始した大学院の公開講座及び平成11年度から開始した夜間遠隔大学院の受講者数の推移を下表に示す。受講者数は増加傾向にあり、地域の要望の高まりに応じて遠隔会場も適宜増設してきた。また、夜間遠隔大学院の評価を受けるために『修士論文報告会』を開催し、各教育委員会・学校関係者の多数の参加を得ていることから関心の高まりがうかがえるとともに、発表内容に対しては参加者から高い評価を得ている。

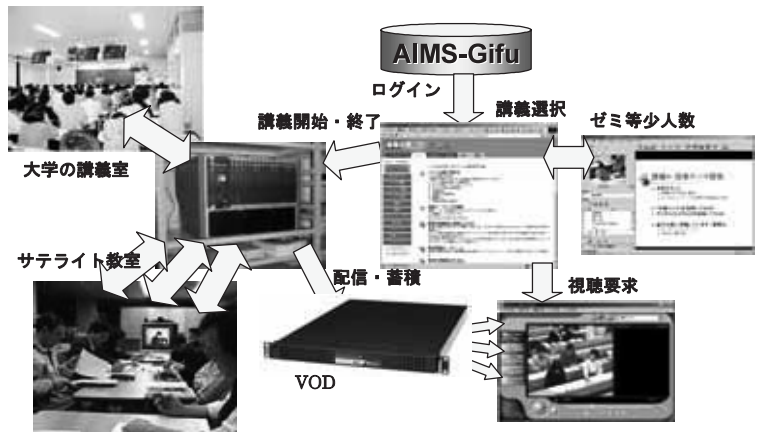
年度	遠隔講義名等	実施場所(サテライト教室等)	遠隔の延受講者(単位)
H7,8	大学院公開講座	岐阜大学において大学院単位認定公開講座を開始	
H9	大学院遠隔公開講座	岐阜大学・高山	380名(380)
H10	大学院遠隔講義	岐阜大学・同附属学校・高山・県生涯学習センター	505名(1,010)
	大学院遠隔公開講座	岐阜大学・高山・中津川・郡上八幡	356名(356)
H11	大学院連携公開講座	岐阜大学・新潟大学・香川大学	510名(1,020)
	夜間遠隔大学院	岐阜大学・高山	大学院入学15名
H12	大学院遠隔公開講座	岐阜大学・高山・中津川・土岐・郡上八幡	883名(1,766)
	夜間遠隔大学院	岐阜大学・高山・土岐・各務原 科目等履修生	大学院入学18名 53名(106)
H13	大学院遠隔公開講座	岐阜大学・高山・土岐・中津川・郡上八幡	522名(1,044)
	大学院連携公開講座	岐阜大学・岐阜女子大学	481名(962)
H14	夜間遠隔大学院	岐阜大学・高山・多治見北・各務原 科目等履修生	大学院入学22名 27名(54)
	大学院遠隔公開講座	岐阜大学・高山・中津川・大垣・県総合教育センター・岐阜女子大学・京都・高知・沖縄	914名(1,828)
H15	夜間遠隔大学院	岐阜大学・高山・多治見北・各務原 科目等履修生	大学院入学15名 11名(22)
	大学院遠隔公開講座	岐阜大学・高山・中津川・大垣・県総合教育センター・岐阜女子大学・京都・高知・沖縄・新潟大学・福井大学	974名(1,948)
	大学院遠隔公開講座	岐阜大学・高山・中津川・大垣・県総合教育センター・岐阜女子大学・京都・高知・沖縄・新潟大学・福井大学	825名(1,650)

4. サテライト型遠隔教育システムの構成

アウトリーチ型遠隔教育は、大学キャンパスにおける学習をテレビ会議システムを利用して地域のニーズに応じて設置されたサテライト教室に拡張するものである。

免許法認定公開講座では、移動型サテライト教室を設置しており、これまでに高山、郡上八幡、多治見、土岐、中津川、大垣、新潟、福井、京都、香川、高知、沖縄等で実施している。夜間遠隔大学院では、常設型サテライト教室を高山、多治見、各務原、大垣、附属学校、熊本（県教育委員会からの要望）に設置している。

図は夜間遠隔大学院における ICT 利用の遠隔教育システムの概要を示したものである。



AIMS-Gifu のサブシステム構成

サブシステム名と主要製品	サブシステムの目的、特徴	メディアタイプ
AIMS-VCS (Video Conferencing System) Polycom MGC-100, ViewStation, PathNavigator	<ul style="list-style-type: none"> ・多地点間のビデオ会議システムでサテライト教室型遠隔教育を支援 ・大学講義室の距離的な拡張を支援 ・遠隔教育で「学ぶ仲間」を重視 	同期・双方向
AIMS-LMS (Learning Management System) Blackboard Learning System ML	<ul style="list-style-type: none"> ・Web 技術を活用した教育支援システムで講義資料、レポート提出、掲示板、アナウンス等を支援 ・On Campus での指導と共用 	非同期・双方向
AIMS-VOD (Video On Demand System) STARBAK Torrent VCG	<ul style="list-style-type: none"> ・講義ビデオを蓄積し欠席者等の再視聴を支援 ・ビデオ会議システムと連携した蓄積 	非同期・単方向
AIMS-OMS (Online Meeting System) Centra 7 eMeeting	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミ等の少人数指導を支援 ・自宅、職場等の任意の場所での利用 ・ビデオと資料の併用による遠隔教育 	同期・双方向

本システムは AIMS(Academic Instructional Media Service)-Gifu と称し、遠隔教育を支援する同期・非同期型のメディアを統合的に利用可能としたシステムであり、サテライト教室型の講義からインターネット型の講義、ゼミ、自己学習等を支援可能としている。

5. インターネット型遠隔教育システムへの展開

ゼミ等の少人数指導を支援する AIMS-OMS は自宅や職場等での学習を可能としており、インターネット型遠隔教育システムとして展開可能である。働きながら学ぶ現職教員が、自宅や職場での大学院での学修が可能となるよう次の取り組みを推進する。

- 1) 学習の主要な時間は、勤務時間外の夜間及び休日における学習を可能とする。
- 2) 学習の主要な場所は、勤務する学校等の職場、または自宅とする。
- 3) 学習の主要な手段は、インターネットを用いたテキスト、ビデオ等による教材提供、掲示板等の非同時型のシステム、および同時型の e-Learning システムとする。

受講者とのコミュニケーションを重視し、一科目あたりの受講者数は 10 名以内として

検討している。すでに、平成 16 年 6 月及び 10 月に「授業実践開発特論 I」「遠隔教育システム開発特論 I」の免許法認定公開講座を実施しており、来年度以降も継続的に実践研究を進め、大学院のインターネット型遠隔教育カリキュラムを開発する計画である。

6. おわりに

現職教員が働きながら学べる大学院は、地域の大学が学校や教育委員会等との連携を強固なものとする取り組みであり、ICT が連携の基盤として多大な役割を果たすものとする。

